のおがた　水辺物語

「多賀さんより遠賀川と福智山を望む」

遠賀川直方地区におけるかわまちづくりの変遷

遠賀川河川事務所直方出張所で平成8年に発足した「直方川づくり交流会」は、遠賀川における地域連携の先駆け的な存在です。

「のおがた水辺物語」パンフレットは、交流会の方々と行政が地域連携を実践してきたこれまでのあゆみをとりまとめたものです。今後、地域の方々と描く夢づくり・川づくりの参考にしていただければ幸いです。

直方川づくり交流会の目標

①直方市の中心を流れる遠賀川について、市民みずからの手で望ましい将来像を考える。

②遠賀川が地域の住民に親しまれ、愛される川になるよう、今後の川づくりのあり方について関係行政機関に積極的に提案していく。

③会員相互および行政機関との意見交換のための交流会を開催し、今後の川づくりについて市民レベルの合意形成を図ることにより、行政への市民参加を促す。

この3つの目標を掲げ、3つの原則7つのルールを胸に活動を行っていきます。

3つの原則・7つのルール

●自由な発言
- 参加者の見解は所属団体の公的見解としない。
- 特定個人・団体のつるしあげはおこなわない。

●徹底した議論
- 議論はフェアプレイの精神でおこなう。
- 議論を進めるにあたっては実証的なデータを尊重する。

●合意の形成
- 問題の所在を明確にしたうえで合意形成をめざす。
- 現在係争中の問題は、客観的な立場で事例として取り扱う。
- プログラムづくりにあたっては、長期的に取り扱うもの及び短期的に取り扱うものを区分し、実現可能な提言をめざす。

● 遠賀川勉強会

交流会でどんな川にしていきたいかと将来の夢を語りあいましたが、治水や利水に関する知識不足のため、荒唐無稽な意見も出てきました。

現実的な遠賀川の提案を出すためには、河川の理解を深める必要があると認識したメンバーの方々は、国土交通省からの川の資料を基に勉強会を開いたり、遠賀川を実際に見て回ったりして、川への理解を深めていきました。

勉強の一環で多自然型工法の第一人者である福留脩文氏を講師に迎え講演をしていただきました。

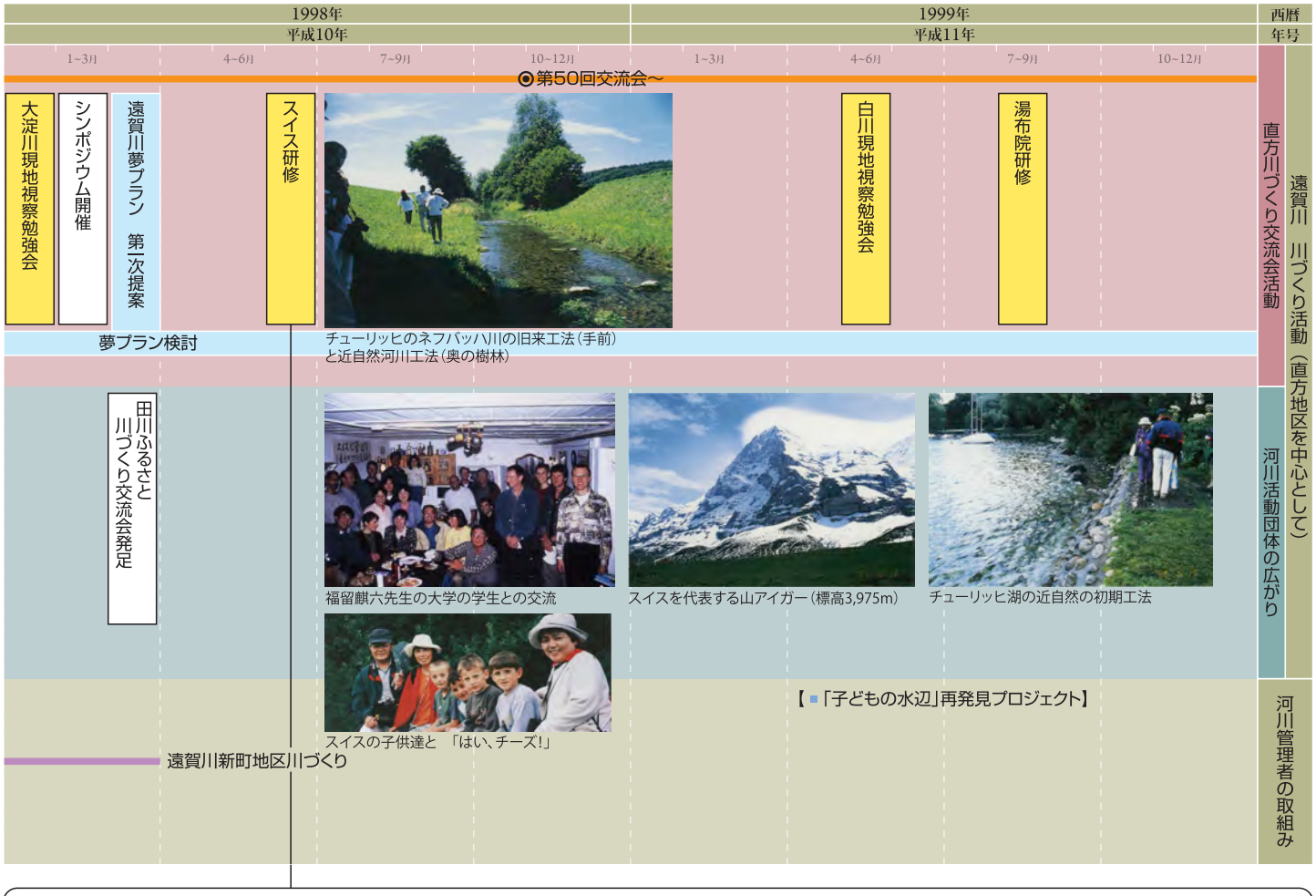
● 四万十川視察(平成9年3月27日～29日)

発足から約1年間の交流会活動のしめくくりとして、多自然型川づくりをおこなっていた四万十川への現地勉強会。

四万十川の清流と福留・亀岡両氏の近自然への思いの深さと人への思いの深さを実感した視察旅行でした。

四万十川視察メンバー

四万十川視察状況



● スイス研修（平成10年6月13日～23日）

福留先生の事例紹介にあったスイスの近自然河川工法を取り入れた川づくりを実際に見て、肌で感じることで、将来の遠賀川の夢を描く糧にしたいという思いで行いました。

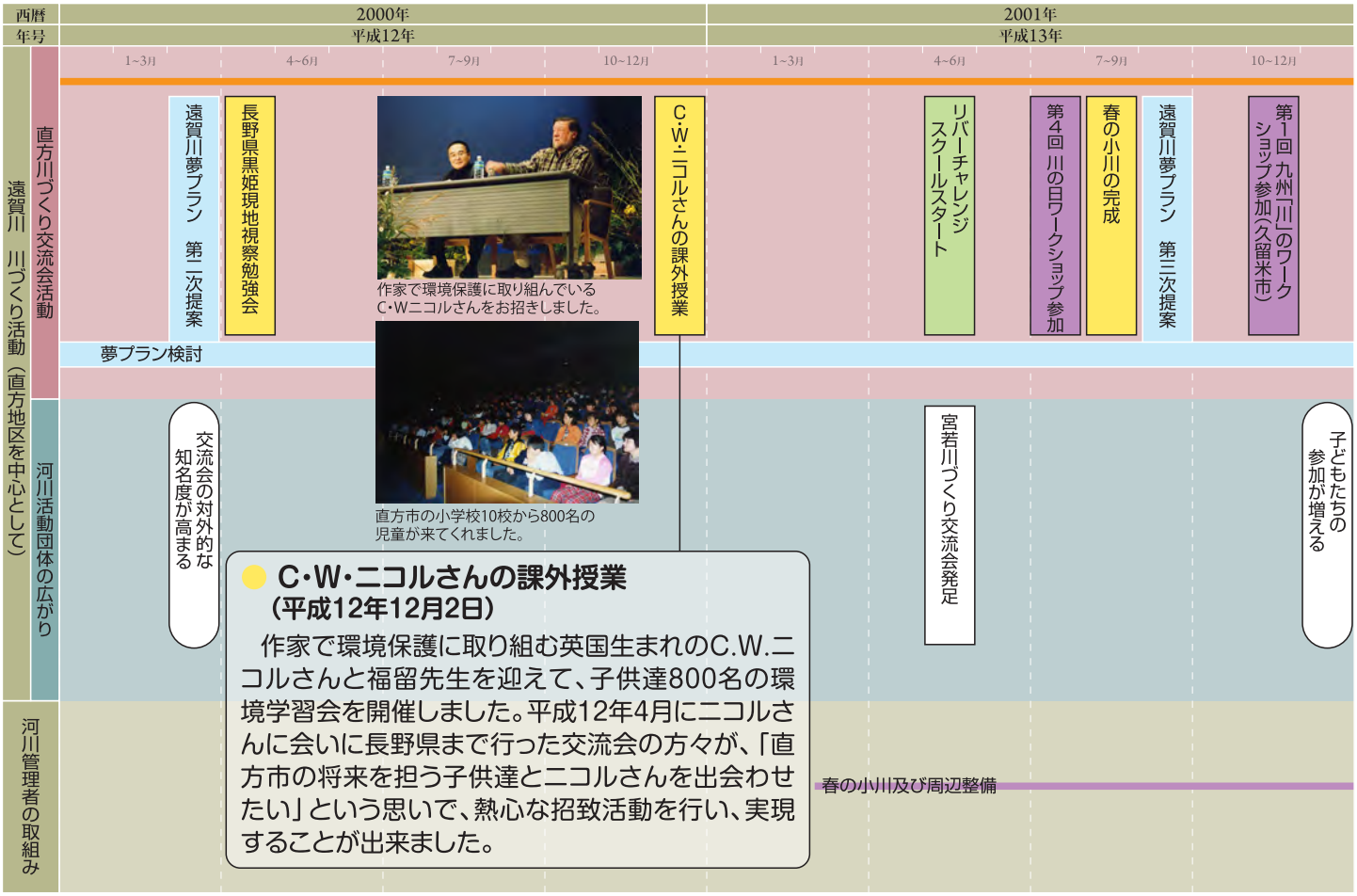
研修から帰国後は、スイスで学んだ川づくり、まちづくりについて小学校や各種団体へ報告会を行いました。

スイスで学んだ川づくり、まちづくりを通じて、遠賀川を子どもたちの学習の場にしたいとの思いがふくらみました。

遠賀川夢プラン第1次提案（平成10年3月10日提案式）

「50年後の遠賀川はこんな姿にしたい!」という想いを絵にしてみました。私たちが理想とする川は、自然が豊かで、市民の憩いの場であり、安心して川を散歩でき、いつ見てもゴミも無く、水質もきれいで川に棲む生き物にも優しく、洪水にも安全な川です。そして、そのなかに直方の特色を盛り込めたら、きっと素晴らしい遠賀川になることでしょう。このような想いをこめて、私たちが理想とする遠賀川の「夢プラン」の実現に向けて「川の自然を大切にし　人にも生き物にもやさしい遠賀川」づくりを提案します。

この「夢プラン」は、現在の川の姿から出発したものです。将来、治水のために川を広げ河川敷を削ることがあるのは承知しています。治水上必要なものには、ある程度柔軟に対応しなければなりません。その場合でも、ここに夢プランで提案したゾーニングには最大限の配慮をされ「夢プランの精神」を尊重した川づくりが行われるよう希望します。



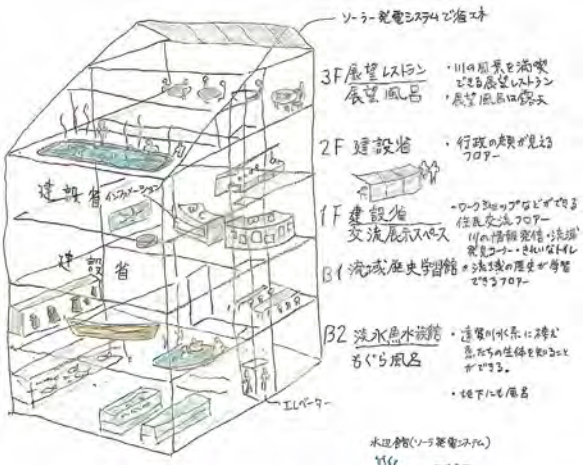
C･W･ニコルさんの課外授業（平成12年12月2日）

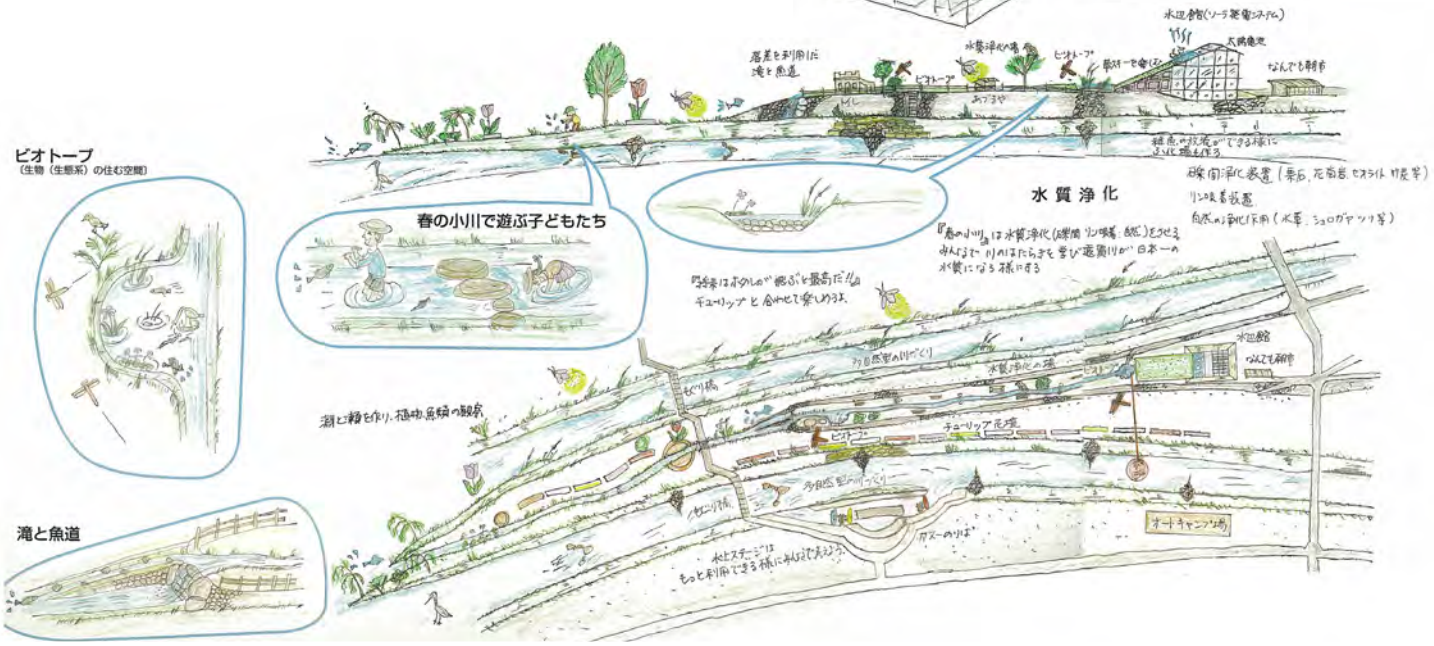
作家で環境保護に取り組む英国生まれのC.W.ニコルさんと福留先生を迎えて、子供達800名の環境学習会を開催しました。平成12年4月にニコルさんに会いに長野県まで行った交流会の方々が、「直方市の将来を担う子供達とニコルさんを出会わせたい」という思いで、熱心な招致活動を行い、実現することが出来ました。

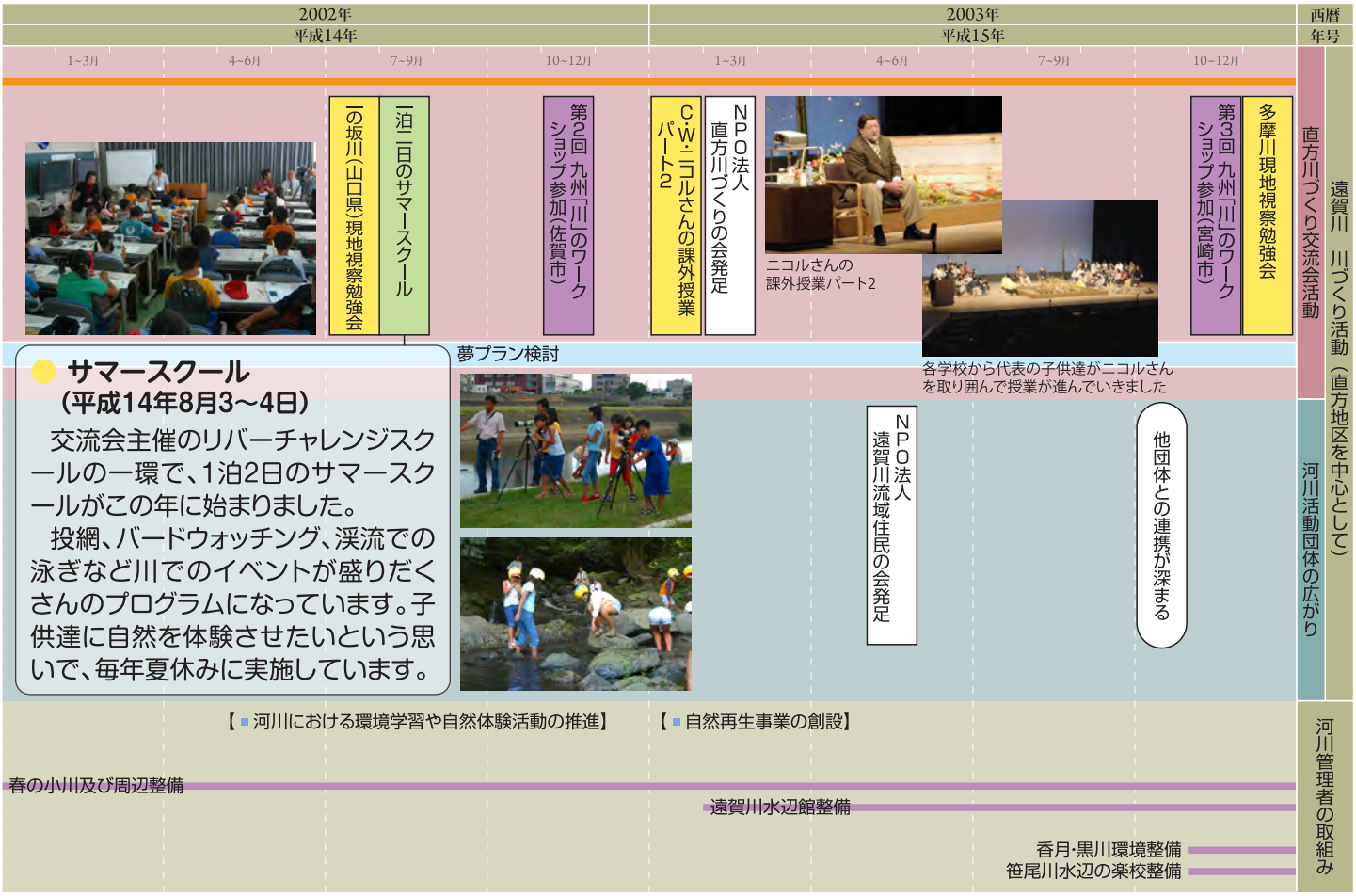
遠賀川夢プラン第2次提案（平成12年3月28日提案式）

第1次提案より2年、この間交流会のメンバーは、様々な形でみなさんの意見を聞いてきました。シンポジウムを開催して思いを聞いたり、市内の小学校へ出向いて一緒に環境学習をしてきました。また、外から遠賀川を考えたいと自費でスイスや県内はもとより宮崎県や大分県、高知の四万十川などを実際に見に行ったりして研さんを重ねて出来たのがこの第2次提案書です。

また、住民と行政がともに活用できるエコな複合施設として「水辺館」の夢プランを描きました。







サマースクール (平成14年8月3~4日)

交流会主催のリバーチャレンジスクールの一環で、1泊2日のサマースクールがこの年に始まりました。

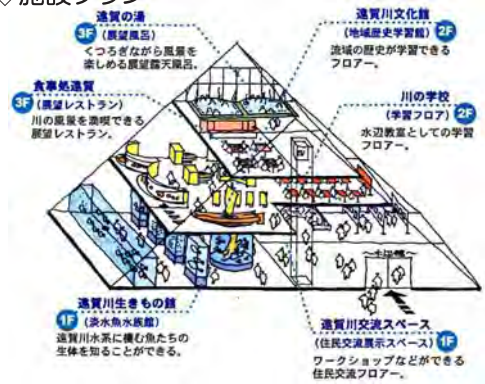
投網、バードウォッチング、渓流での泳ぎなど川でのイベントが盛りだくさんのプログラムになっています。子供達に自然を体験させたいという思いで、毎年夏休みに実施しています。

遠賀川夢プラン第3次提案 (平成13年9月24日提案式)

第2次提案から1年半、ニコルさんの課外授業を開催したり、実際に中之島とその周辺において体験学習会や中之島活用の親子会議などを実施し、水辺の環境を学習できる春の小川や今から出来る水辺館の活用方法のアンケートを行うなど、みなさんからの意見を募ってその結果に基づいた上でプランの充実を図り再検討をして具体的な絵を描きました。

この中之島が日本一の環境学習と交流の場として直方市の今後の街づくりの核となることを願っています。

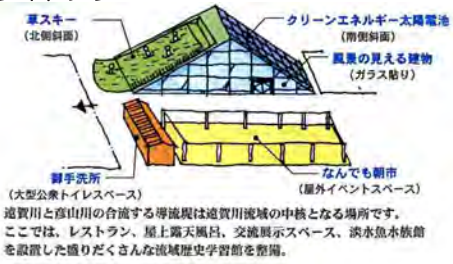
◇施設プラン



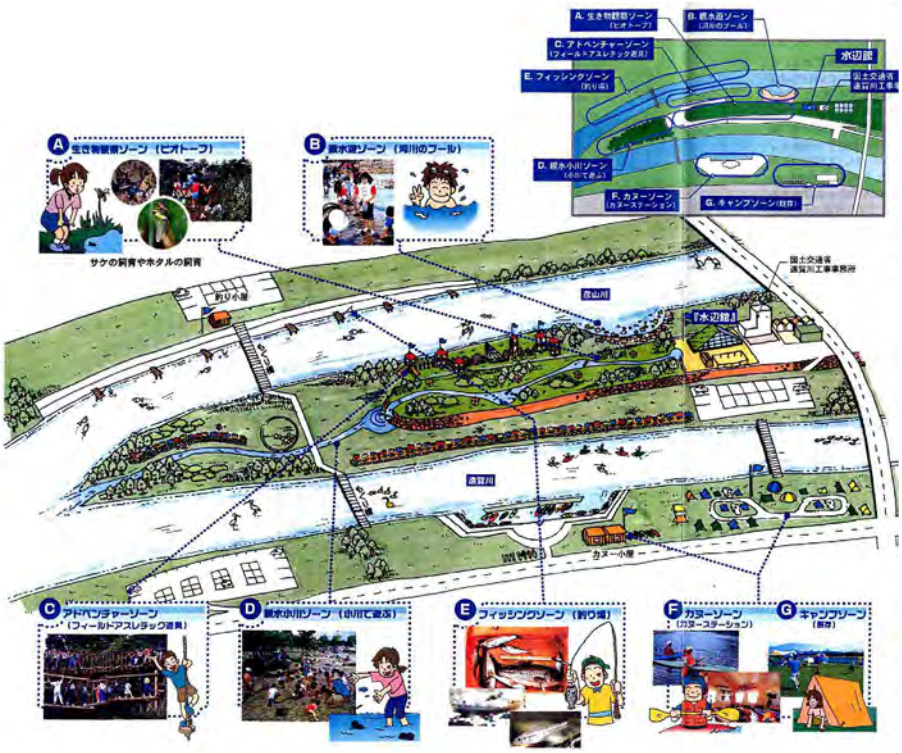
◇運営・管理プラン

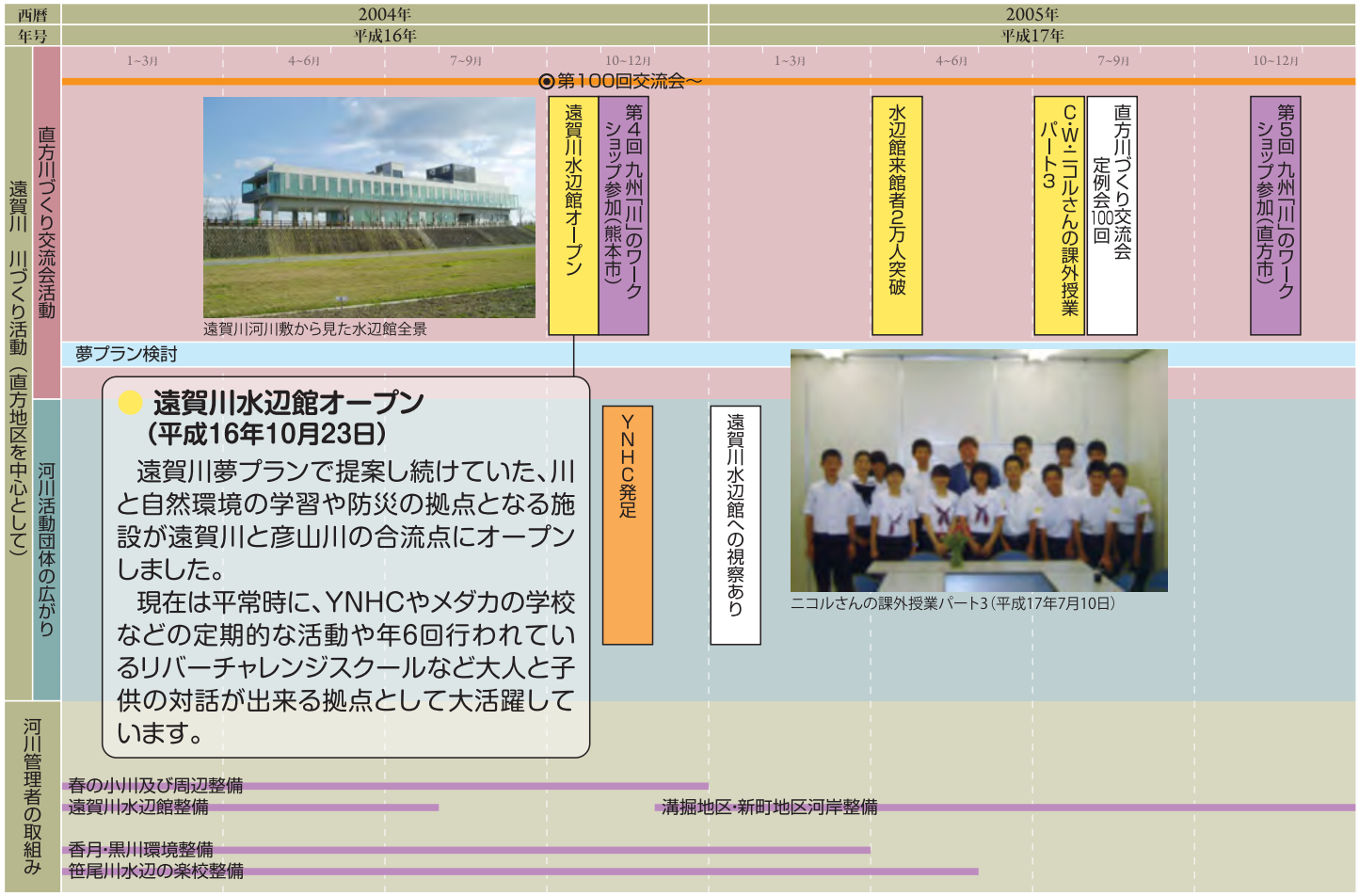
登録ボランティア制度(学習サポートボランティア、管理ボランティア)・エコボランティア・リバーサポーター・川守の会etc…
支援に対して風呂利用券を支給する等の応分の謝礼をすることで更に利活用をうながす。

◇サイトプラン



遠賀川と彦山川の合流する導流提は遠賀川流域の中核となる場所です。ここでは、レストラン、屋上露天風呂、交流展示スペース、淡水魚水族館を設置した盛りだくさんな流域歴史学習館を整備。





遠賀川水辺館オープン（平成16年10月23日）

遠賀川夢プランで提案し続けていた、川と自然環境の学習や防災の拠点となる施設が遠賀川と彦山川の合流点にオープンしました。

現在は平常時に、YNHCやメダカの学校などの定期的な活動や年6回行われているリバーチャレンジスクールなど大人と子供の対話が出来る拠点として大活躍しています。

育っている次世代

水辺館を拠点に、環境保護や水問題などに取り組む中高生による「**YNHC**」や災害時の復興支援を目的とした「**JOC**」、春の小川をフィールドにした小学生が活動している「**めだかの学校**」、水辺館周辺の自然を活かした遊びを体験する未就学の子供の「**キッズLNC**」といった各世代に分かれたグループが活動しています。

キッズLNC

キッズ Little Natural Club

未就学の子ども達とお母さんのためのクラブです。水辺館や周辺の自然を活かして遊び学びます。

【開校日】毎月第1木曜日

【対　象】～6歳とお母さん

めだかの学校

かえる教室・遠賀川生き物調査隊・すずめ教室

だ～れが、生徒か先生か♪学習ビオトープ春の小川の生物調査や、水質しらべ、野鳥観察を毎月行っています。

【開校日】第1.3.4土曜日

【対　象】小中学生

YNHC

Youth Natural History Club（青少年博物学会）

学校の垣根を越えて水問題や生物多様性に取り組む、中高生による、中高生のための活動ネットワークです。

【定例会】第3日曜日

【対　象】中学生・高校生

JOC

Joint of College・遠賀川ユースリーダー

災害復興支援ボランティアを契機に設立した九州内の大学のネットワーク。平常時からネットワーク強化に取り組む。

【活　動】夏期・春期休暇中

【対　象】大学生および若者

SWEEP

河川・環境ボランティア

遠賀川を中心に地球環境の保全活動、違う学校どうしの学生間の親睦を深め、次世代の活動をサポートし活動の輪を広げる。

【活　動】最終日曜日

【対　象】大学生・大学院生 専門学校生

リバーチャレンジスクール

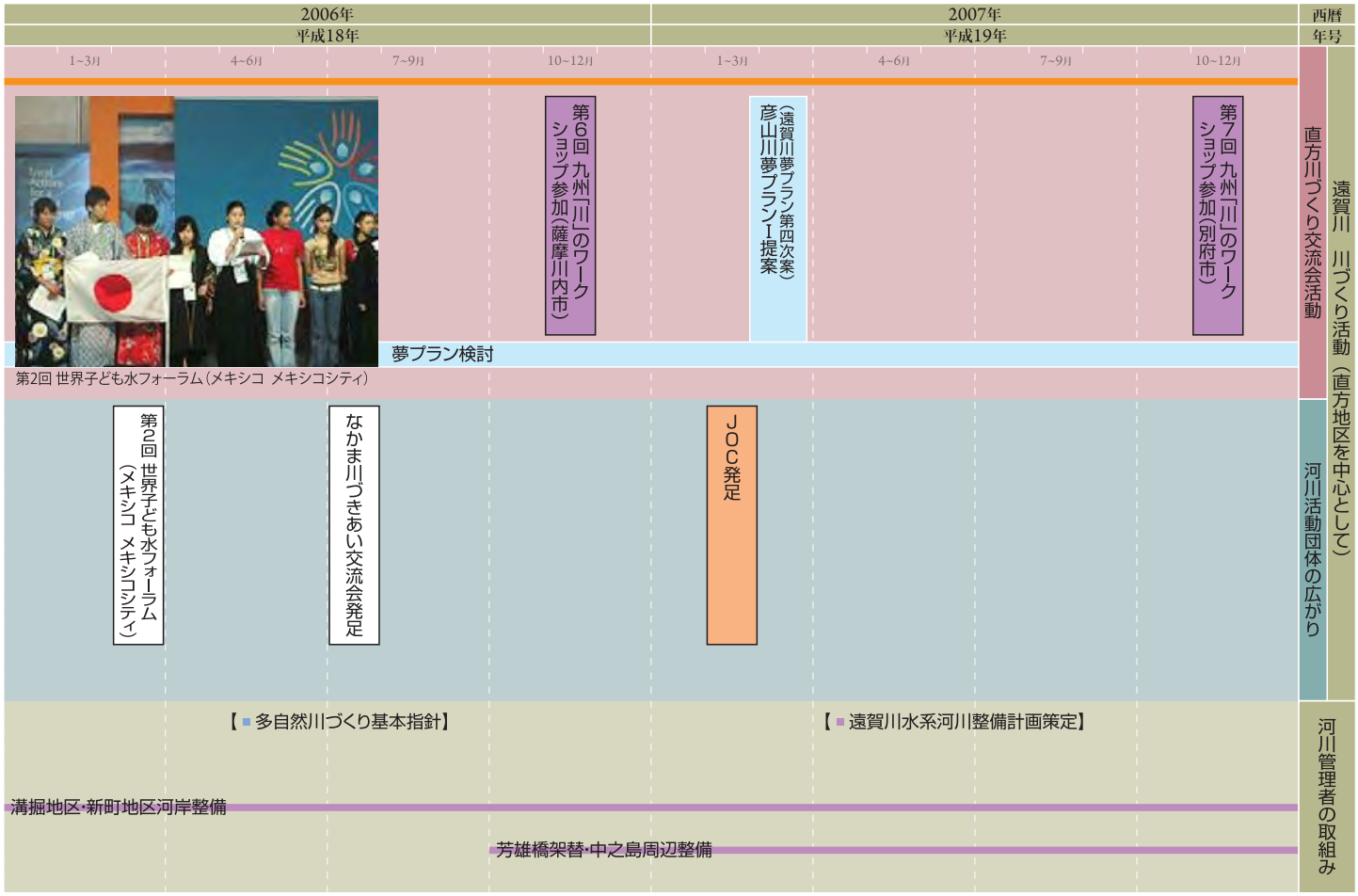
年に6回開催されるリバーチャレンジスクール。毎年多

特に夏に開かれるサマースクールは1泊2日は水遊びグなど内容が盛りだくさんで、様々な体験ができます。知り、川の遊び方などを学ぶことで、川での事故を防ぐ

５月　遠賀川からの花プレゼント

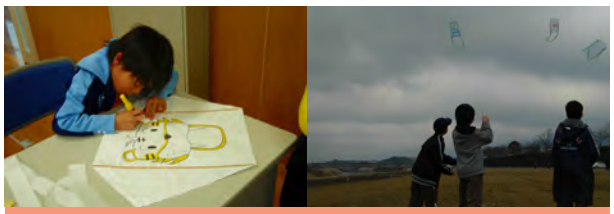
１１月～１２月　バードウォッチング

３月　菜の花染め



多くの子供達が楽しんで参加しています。
ゲやカヌー体験、釣りや夜の昆虫採取・バードウォッチン
。自然に触れることで自然の大切さや環境の大切さを
方法などを勉強できます。

7月　サマースクール



1月　凧揚げ

3月　チューリップを描こう

川のワークショップ

九州川のワークショップは、官・学・民が交流し、次世代の川を守る人材育成や地域交流などを目的に、環境NPOなどでつくる実行委員会が九州各地で開いています。

九州の河川流域で活動する団体・学校・行政・企業などが、その活動をワークショップ形式で発表し、意見交換を行っています。

交流会では、第1回から参加しています。第5回からは、YNHCやめだかの学校も参加し、徐々に裾野が広がっていっています。また、発表のやり方も最初は言葉で説明していましたが、最近は寸劇を取り入れるなど分かり易い発表を行っています。

直方川づくり交流会の発表（第３回）

直方川づくり交流会の発表（第12回）

ＹＮＨＣの発表（第９回）

めだかの学校の発表（第９回）

アファン森林公園で子ども達と植樹

第3回 世界子ども水フォーラム（トルコ イスタンブール）

C・W・ニコルさんとイギリス研修
（平成20年3月15日～20日）

課外授業をはじめ、交流会とご縁が深いニコルさんが、古里の南ウェールズを案内していただけることになりました。

石炭産業で栄えた南ウェールズですが、森林の伐採が激しく一時期は枯れ果てた森になっていたのを市民の力で植林を続け、今では見違えるように美しい森になっています。その森で、現地の子供達と一緒に植樹をしました。また、一時は工場廃水や生活排水の流入で著しく汚染され、その後の環境対策により水環境が改善したテムズ川の視察などを行いました。

彦山川夢プランⅢ（平成21年3月24日提案式）

彦山川は、霊峰英彦山（1,200m）を源流とし直方で合流する、遠賀川の支川の中で最も長い川です。遠賀川夢プランの1次提案において自然豊かな区間なので、できるだけそのまま残すエリアとして提案をしていました。

今回、「自然との共存をめざす川づくり」をテーマに掲げ、多様な自然を残し、鳥がちょっと行こうかな…、人間もちょっと行ってみようかなという実験的な場所になればと彦山川の夢プランを提案しました。

「このような川の夢プランを描くことにより、まちが元気になることにつながれば」という熱い願いを込めています。

防災のシンボル くりくり灯台

彦山川夢プランⅢでは、近年のゲリラ豪雨の頻発や洪水に対する意識を踏まえて、いざというときの情報発信についてよい方法がないか議論し、防災や減災について考えるときのきっかけや話題提供にもなる「くりくり灯台を提案しました。

2010年				2011年				西暦
平成22年				平成23年				年号
1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	

- 土木学会デザイン賞受賞
- リバーチャレンジスクール50回達成
- 水辺館来館者20万人突破
- 第10回 九州「川」のワークショップ参加(延岡市)
- 第11回 九州「川」のワークショップ参加(相良村)

夢プラン検討

遠賀川 川づくり活動(直方地区を中心として)

直方川づくり交流会活動

河川活動団体の広がり

河川管理者の取組み

遠賀川河口堰多自然魚道工事

中島自然再生工事

2009年度土木学会デザイン賞最優秀賞受賞
(遠賀川　直方の水辺)(平成22年2月)

遠賀川夢プランがカタチになった一つです。

地域住民、学識経験者、直方市、河川事務所、設計施工業者など、全ての人々の協力でできあがったこのすばらしい水辺空間が評価された結果です。

この受賞をエネルギーにかえて、次の夢の実現に取りくんでいるところです。

今後は、この水辺の風景を守り、次世代に引き継いでいきます。

市民の意見を集約した模型を使っての川づくり

自然豊かな遠賀川直方の水辺の様子

緩傾斜護岸施工前

緩傾斜護岸施工後

第4回 世界子ども水フォーラム（フランス マルセイユ）

地域の方と一緒に行った現地調査

彦山川下境地区緩傾斜護岸整備

また一つ、遠賀川夢プランがカタチになりつつあります。

遠賀川の緩傾斜護岸に続き、彦山川の右岸側でも緩傾斜護岸の工事が進行中です。

彦山川下境地区緩傾斜護岸整備(平成25年12月撮影)

直方川づくり交流会　第200回定例会

平成8年に立ち上がった直方川づくり交流会。月に1回の定例会がついに200回を迎えました。
夢プランの作成、リバーチャレンジスクールの準備、視察勉強会の計画など様々な事柄について議論してきました。

第1回交流会（平成8年6月27日）

第100回交流会（平成17年7月26日）

第150回交流会（平成19年10月27日）

夢プラン提案式
（平成12年3月）

九州川のワークショップin熊本入賞
（平成12年3月）

彦山川夢プラン提案式
（平成20年3月）

長野県黒姫アファンの森視察勉強会
（平成22年8月）

川のワークショップ準備風景
（平成13年7月）

水辺館来館10万人達成記念植樹
（平成20年1月）

世界子ども水フォーラム壮行会
（平成21年2月）

遠賀川川下り大会
（平成24年7月）

「直方川づくり交流会 第200回定例会」　（平成25年12月17日）

平成25年12月17日に直方川づくり交流会の第200回定例会が遠賀川水辺館で開催され、これまで交流会の活動に関わった約70名の方々が参加されました。

始めに、交流会のメンバーにより18年間の歩みが、当時の写真を交え発表されました。

次に交流会のメンバーとYNHCの現役、卒業生、国土交通省の歴代の直方出張所長、直方市長や当時の担当課長、などが参加した座談会が開催されました。

交流会発足時の出来事やスイスの珍道中、交流会の認知度アップ作戦、全国川のワークショップの参加、初めてのサマースクール、YNHC設立当初の裏話、緩傾斜護岸の市民部会の話、世界水フォーラム参加の様子など数々のエピソードが飛び出し、終始和やかな雰囲気で、時折大爆笑の座談会となりました。

改めて18年間の歴史を再認識し、多くの人々が関わってつながってきたことに感謝する交流会となりました。

300回に向けて

川づくりは人づくりだと思います。最初野見山さんと目標を掲げたことが実現していっていると思います。交流会と関わらせていただいた国土交通省の職員は交流会で育ち、今は直方での経験をベースにして、各地で活躍しています。

また、YNHCといった子供達が活動し育っていく場を作っていただいて、私が想像していなかったような発展を遂げているということに感動を覚えます。

交流会の活動が継続できているのは、直方市長を始め直方市役所の方々の応援だと思います。ずっと応援していただいたことに、本当に感謝申し上げます。200回で終わりではなく、これからも継続していくと思います。今後も皆さんに支援していただき、直方の繋がりがさらに大きくなるように出来たらと思っています。

直方川づくり交流会発足時の直方出張所長:田上 敏博さん

私たちは古里の遠賀川にいっぱい夢を見させていただきました。夢を見ると言うことが、どんなに素晴らしいことかを体験いたしました。その夢が少しずつ実現していくことで、自分たちの古里が自慢できる古里になり、それを次の世代の子供達や若者達にバトンタッチ出来ることを願いながら頑張っております。

この200回を迎えたことは、今日集まりいただいた皆様を始め、影になり日向になって私たちを支えてくれた皆様がいらっしゃったからこそ、ここまで継続できたのではないかと感謝申し上げます。私たちもみんな年寄りになりましたが、もう一息頑張ろうと考えていますので、どうか皆様応援の方をよろしくお願いいたします。

直方川づくり交流会座長:野見山 ミチ子さん

表紙画：岩熊　勝子　　題字：日高　幸子

国土交通省　遠賀川河川事務所　TEL(0949)22−1830
直　方　出　張　所　TEL(0949)24−0083
ホームページ　http://www.qsr.mlit.go.jp/onga/

平成26年3月